

地球に生命（いのち）が生まれたわけ

原始の大気と海に生命（いのち）が生まれる

光合成生物の出現

宇宙空間にあったガスやちりなどが集まり、ぶつかり合い、約46億年前、惑星の一つである地球が生まれました。
温度が下がってきた地球では雨が降り、海ができていました。

46億年前

やがて、生命のもととなるアミノ酸などが、アンモニアやメタンを素材として深海底ででき、最初の生命が生まれたと考えられています*。
38億年前の生物のこんせき痕跡のようなものが発見されています。

40億年前

そのころは、大気中に酸素は少なく、海の中の硫化水素などを使って生命を維持していたようです。

35億年前

約27億年前ころには、太陽の光をエネルギーにしてくらす光合成生物が出現したとされています。

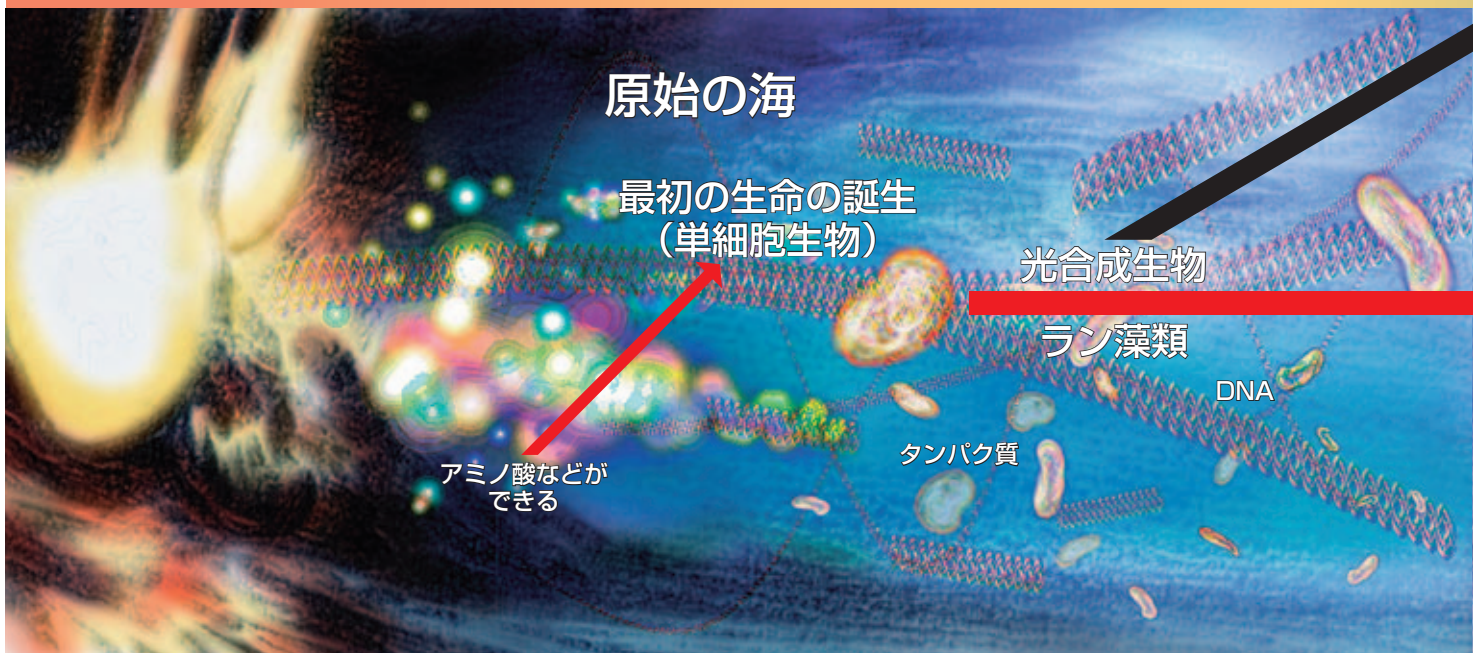
30億年前

25億年前

原始の大気

二酸化炭素(CO₂)
窒素(N₂)
水蒸気(H₂O)など

地球誕生 海ができる



*大気中で落雷によってできた説や、隕石の衝突による説もあります。